

# 2025年3月期 決算説明会

2025年5月28日  
綜研化学株式会社  
(証券コード：4972)

- 1. 2025年3月期業績総括と  
中期経営計画「Advance 2025」の進捗**
2. 2025年3月期 連結決算
3. 2026年3月期 業績見通し

- ✓ 売上高 : 中国市場での粘着剤の供給体制を強化し、液晶ディスプレイ分野の需要回復・拡大とシェア拡大により大幅増収
- ✓ 営業利益 : 物価上昇に伴うコストアップ要因はあったものの価格改定やコスト削減の取り組みと、増販効果により大幅増益
- ✓ その他 : 円安により、海外子会社業績の円換算が増加

⇒売上高、利益共に、2期連続で過去最高を更新

(億円)

	2024年3月期 実績			2025年3月期 実績			前期比		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
<b>売上高</b>	<b>193</b>	<b>221</b>	<b>413</b>	<b>243</b>	<b>233</b>	<b>476</b>	<b>51</b>	<b>12</b>	<b>63</b>
ケミカルズ	180	195	375	232	217	449	52	22	74
装置システム	12	25	38	12	16	27	▲ 1	▲ 10	▲ 11
<b>営業利益</b>	<b>16.7</b>	<b>21.6</b>	<b>38.3</b>	<b>37.9</b>	<b>25.5</b>	<b>63.4</b>	<b>21.2</b>	<b>3.9</b>	<b>25.1</b>
利益率%	8.7	9.8	9.3	15.6	10.9	13.3	6.9	1.2	4.0
<b>経常利益</b>	<b>17.8</b>	<b>21.3</b>	<b>39.1</b>	<b>36.3</b>	<b>27.0</b>	<b>63.3</b>	<b>18.5</b>	<b>5.7</b>	<b>24.2</b>
<b>親会社株主に帰属 する当期純利益</b>	<b>13.7</b>	<b>12.6</b>	<b>26.3</b>	<b>28.0</b>	<b>15.7</b>	<b>43.7</b>	<b>14.3</b>	<b>3.1</b>	<b>17.4</b>
利益率%	7.1	5.7	6.4	11.5	6.7	8.6	4.4	1.0	2.2
為替レート：円/人民元	20.0		19.9	22.4		21.6	2.4		1.7

# 中期経営計画「Advance2025」の進捗状況①

✓ 中国での生産能力を増強し液晶ディスプレイ（LCD）分野の粘着剤シェア拡大により、売上高は中計目標から若干減なるも、利益は前倒して大幅に達成

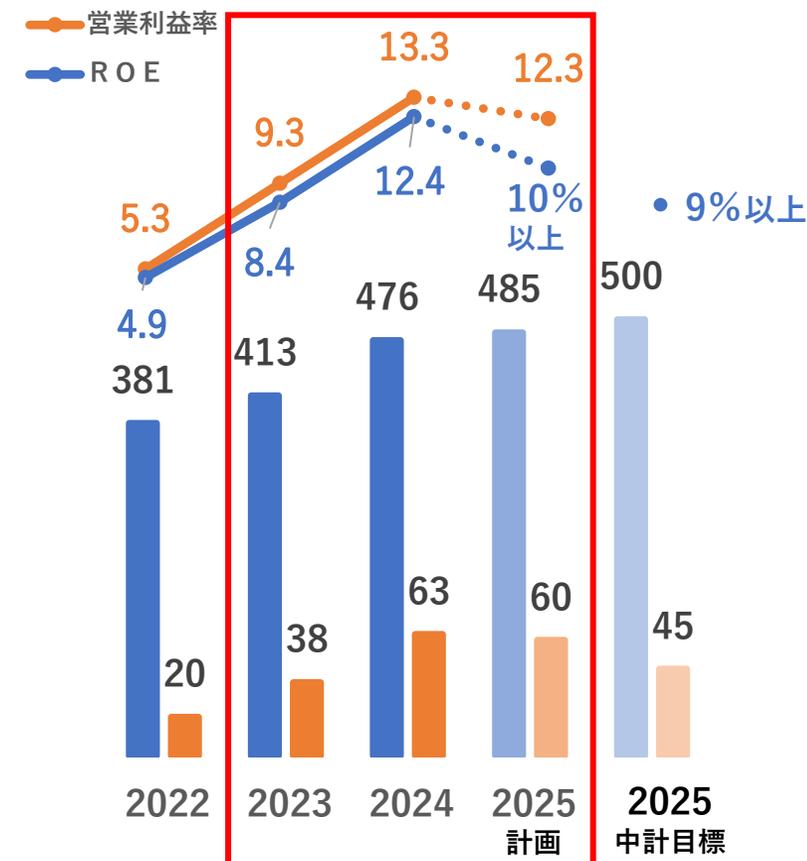
引き続き、既存事業におけるLCD以外の分野での製品開発、次世代製品の開発を加速し、事業ポートフォリオ改革を推進

✓ 投資計画（200億円/3年）のうち、生産能力拡大の設備投資は概ね完了し、中国LCD用の粘着剤生産能力を当初の約3倍に次世代製品の技術開発、新規事業開発等への投資を重点的に推進

## Advance2025 : 2023~25年度

(億円)

	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 計画	2025年度 中計目標
売上高	381	413	476	485	500
営業利益	20.3	38.2	63.4	60.0	45.0
営業利益率	5.3%	9.3%	13.3%	12.3%	9.0%
ROA	4.7%	8.0%	12.1%	9%以上	7%以上
ROE	4.9%	8.4%	12.4%	10%以上	9%以上
設備投資	38	21	19	39	
配当(円/株)*	42.5	47.5	62.5	63	

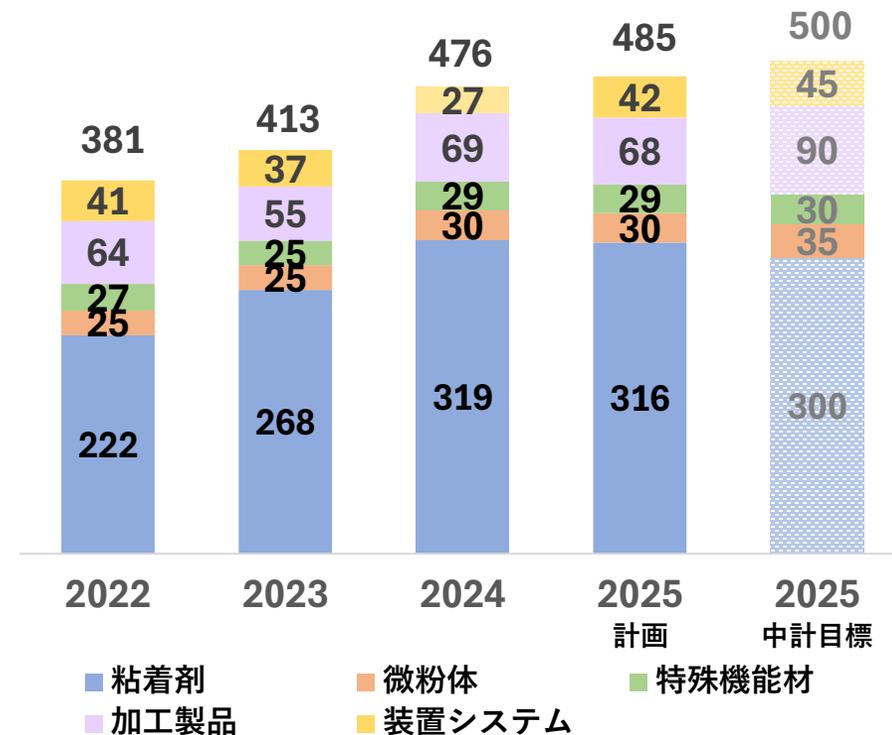


※2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施

2024年度以前の配当（円/株）は、その時点で当該株式分割が行われたものと仮定して算定

# 中期経営計画「Advance2025」の進捗状況②

	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2025年度計画	(億円) 2025年度 中計目標
ケミカルズ	339	375	449	443	455
粘着剤	222	268	319	316	300
微粉体	25	25	30	30	35
特殊機能材	27	25	29	29	30
加工製品	64	55	69	68	90
装置システム	41	37	27	42	45
合計	381	413	476	485	500



✓ 既存事業による安定収益基盤の拡大と収益性改善

中国液晶ディスプレイ用粘着剤は、南京の設備投資は完了。併せて、物流合理化にも取り組み、安定供給体制を確保

✓ 事業構造改革に向けた次世代事業領域の創出

新材料技術の基盤構築、新規事業創出、新プロセス開発は、更に注力して取り組む

✓ サステナビリティ経営の推進

脱炭素、循環型社会への貢献に向けた製品開発に取り組むと共に、非化石エネルギーの導入を進める

1. 2025年3月期業績総括と  
中期経営計画「Advance 2025」の進捗
2. **2025年3月期 連結決算**
3. 2026年3月期 業績見通し

# 2025年3月期 業績

- ✓ 売上高は、液晶ディスプレイ関連の粘着剤の販売が上期のオリンピック特需で急伸び、下期に若干の反動減はあったものの、円安に伴う為替換算額の増加もあり、大幅な増収
- ✓ 営業利益は、粘着剤の増販効果に加え、コスト低減や採算是正などにより、大幅な増益

(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	41,318	47,633	6,315	15.3
営業利益	3,828	6,347	2,518	65.8
営業利益率 (%)	9.3%	13.3%	4.0pt	—
経常利益	3,909	6,339	2,430	62.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,629	4,378	1,749	66.5
期末為替レート (円/人民元)	19.9	21.6	1.7	—

# 2025年3月期 セグメント別売上高

- ✓ ケミカルズ : 中国市場における液晶ディスプレイ関連の粘着剤、自動車・情報電子分野での加工製品の販売が伸長したことにより、大幅増収・増益
- ✓ 装置システム : 設備関連の工事案件の工期変更等により、大幅減収・減益（営業赤字）

(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前期比	
			増減	増減率 (%)
<b>ケミカルズ</b>	37,533	44,913	7,379	19.7
粘着剤	26,887	31,972	5,085	18.9
微粉体	2,545	3,002	456	17.9
特殊機能材	2,595	2,944	348	13.4
加工製品	5,504	6,992	1,488	27.0
<b>装置システム</b>	3,784	2,720	▲1,064	▲28.1
<b>合計</b>	41,318	47,633	6,315	15.3

# 2025年3月期 営業利益分析

- ① 装置システムが減益となるも、液晶関連の粘着剤の増販・採算是正効果により大幅増益
- ② 国内の原材料価格が上昇しものの、中国は下げ傾向で推移
- ③ 中国南京工場の設備増強に伴う減価償却費や人件費・物流費・営業経費等が増加



# 2025年3月期末 貸借対照表

- ✓ 総資産： 現預金等の増加にくわえ、円安に伴う中国子会社資産の為替換算額が増加
- ✓ 負債： 為替換算額が増加するも、仕入債務や長期借入金、退職給付債務等が減少
- ✓ 純資産： 利益剰余金や為替換算調整勘定が増加

(百万円)

	2024年 3月末	2025年 3月末	増減		2024年 3月末	2025年 3月末	増減
<b>流動資産</b>	30,322	33,435	3,112	<b>負債</b>	17,847	16,111	▲1,735
現預金等	13,076	15,913	2,837	仕入債務	8,082	7,337	▲744
売上債権	11,678	11,406	▲292	借入金	4,266	4,135	▲130
棚卸資産	5,313	5,784	470	退職給付に係る 負債	1,479	1,008	▲470
その他	253	330	98	その他	4,019	3,629	▲389
<b>固定資産</b>	20,260	20,679	419	<b>純資産</b>	32,735	38,003	5,267
有形固定資産	18,793	18,883	89	株主資本	29,204	32,818	3,614
無形固定資産	328	669	341	その他の包括利益 累計額	3,530	5,184	1,653
その他	1,138	1,126	▲11				
<b>資産合計</b>	50,582	54,114	3,532	<b>負債・純資産合計</b>	50,582	54,114	3,532

期末為替レート (円/人民元)    19.9                  21.6                  1.7

# キャッシュ・フローの状況

- ✓ 営業CF : 運転資金等が増加するも、税金等調整前当期純利益と減価償却費により増加
- ✓ 投資CF : 生産設備の更新・合理化や情報システム関連の投資などにより減少
- ✓ 財務CF : 配当金の支払や借入金の返済などにより減少

(百万円)

	2024年3月期	2025年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,397	5,925
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,424	▲1,946
フリー・キャッシュ・フロー	3,972	3,979
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,079	▲1,352
現金及び現金同等物に係る換算価額	170	210
現金及び現金同等物の増減額	3,063	2,837
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,076	15,913

1. 2025年3月期業績総括と  
中期経営計画「Advance 2025」の進捗
2. 2025年3月期 連結決算
3. **2026年3月期 業績見通し**

# 2026年3月期 業績見通し

- ✓ 売上高 : 堅調な液晶ディスプレイ関連の需要、装置システムの受注状況から増収を見込むものの、円高に伴う為替換算額の減少を見込み、前期比1.8%増に留まる
- ✓ 営業利益 : 物流費や人件費、調査・開発経費、減価償却費の増加に加え、為替換算額の減少を見込み減益

(百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 見通し	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	47,633	48,500	866	1.8
営業利益	6,347	6,000	▲347	▲5.5
営業利益率 (%)	13.3%	12.4%	▲0.9pt	—
経常利益	6,339	5,900	▲439	▲6.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,378	4,000	▲378	▲8.6
期末為替レート (円/人民元)	21.6	19.5	▲2.1	—
1株当たり配当金 (円)	62.5※	63.0	0.5	0.8

※2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

2025年3月期実績の1株当たりの配当金は、その時点で当該株式分割が行われたものと仮定して、算定しております。

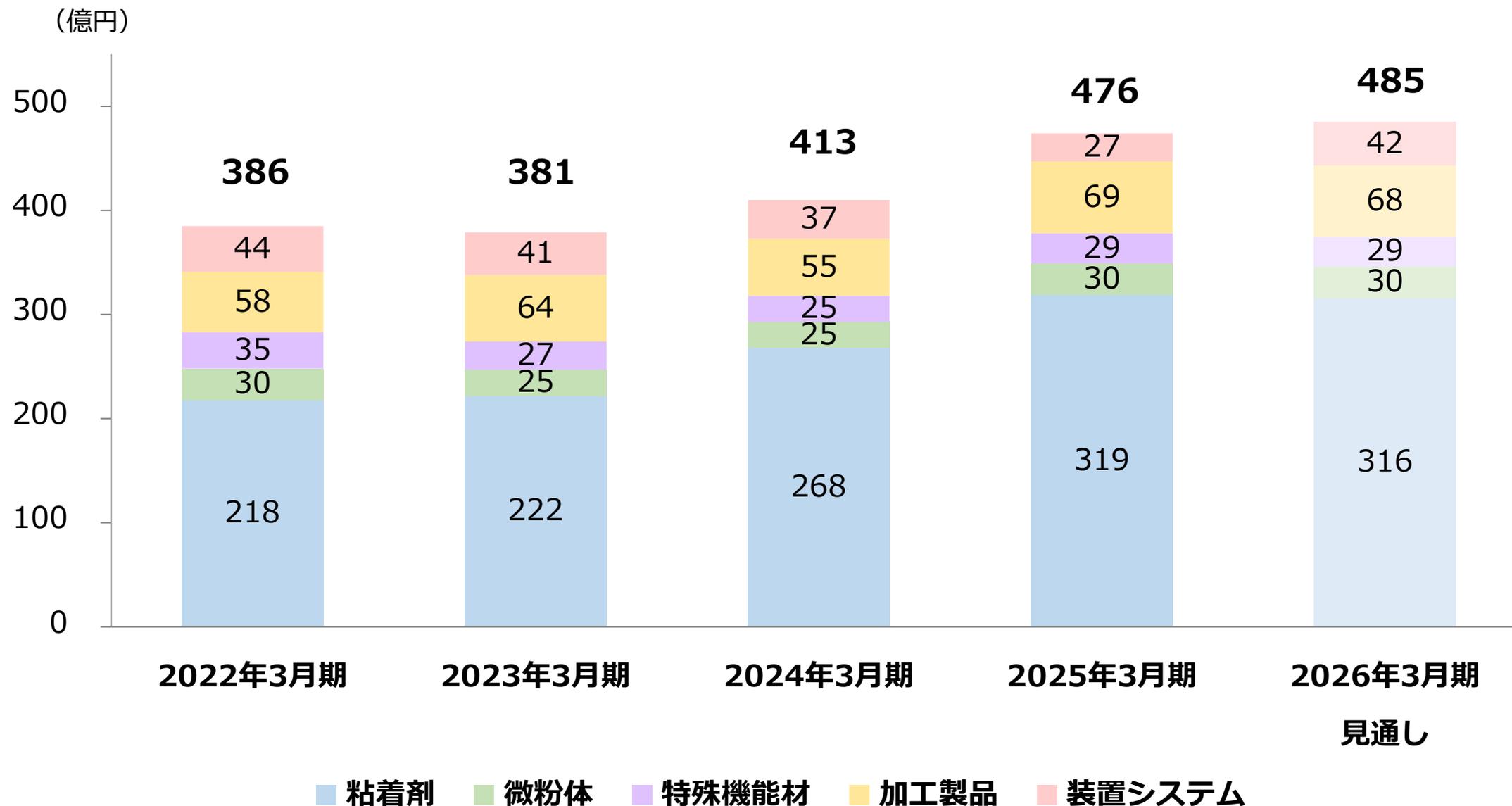
# 2026年3月期 セグメント別売上高

- ✓ ケミカルズ : 液晶ディスプレイ関連や自動車、情報電子分野などで増収を見込むものの、円高に伴う為替換算額の減少を見込み減収
- ✓ 装置システム : 前期からの持ち越し案件や前期末までの受注状況、主要顧客の設備投資動向などから増収を見込む

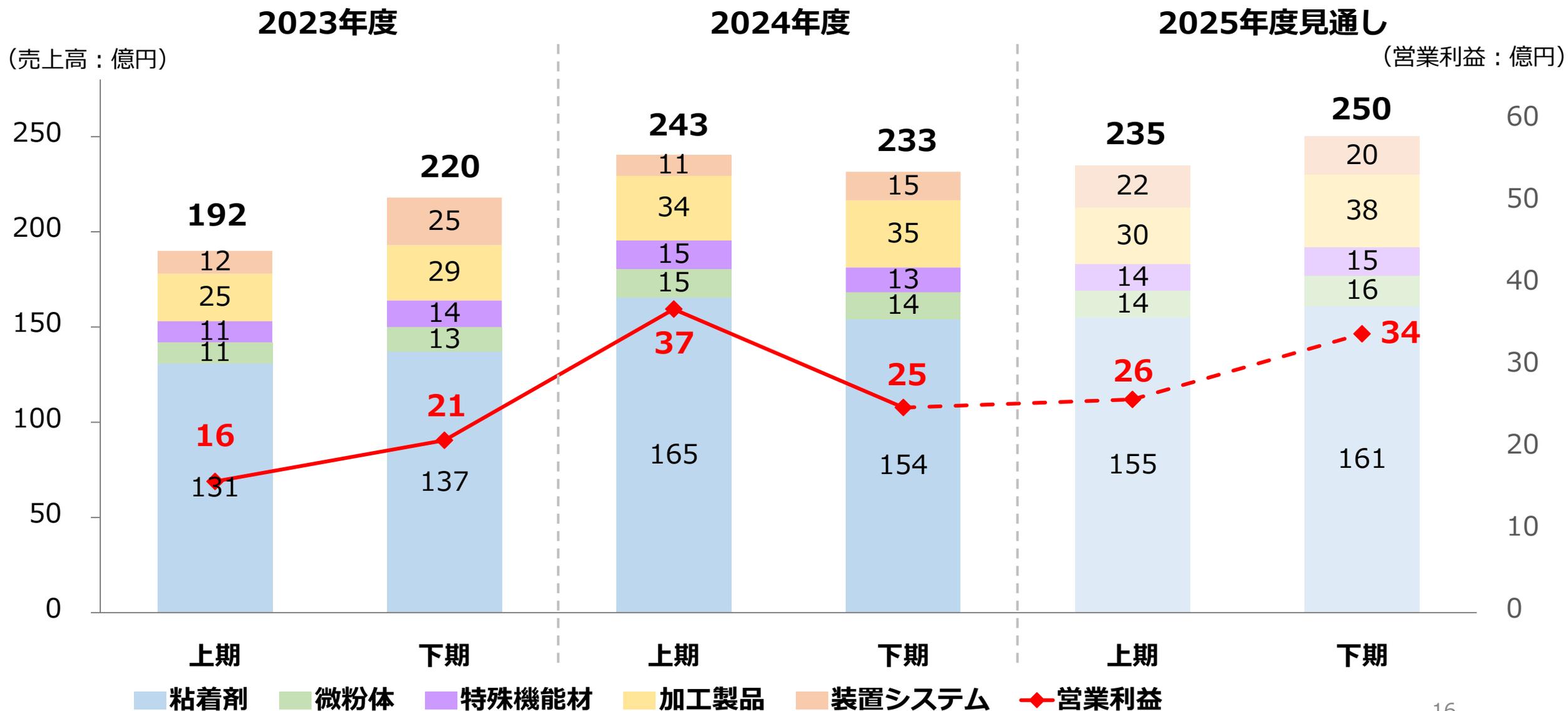
(百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 見通し	前期比	
			増減	増減率 (%)
<b>ケミカルズ</b>	44,913	44,300	▲613	▲1.4
粘着剤	31,972	31,600	▲372	▲1.2
微粉体	3,002	3,000	▲2	▲0.1
特殊機能材	2,944	2,900	▲44	▲1.5
加工製品	6,992	6,800	▲192	▲2.8
<b>装置システム</b>	2,720	4,200	1,479	54.4
<b>合計</b>	47,633	48,500	866	1.8

# 商品ユニット別売上高推移

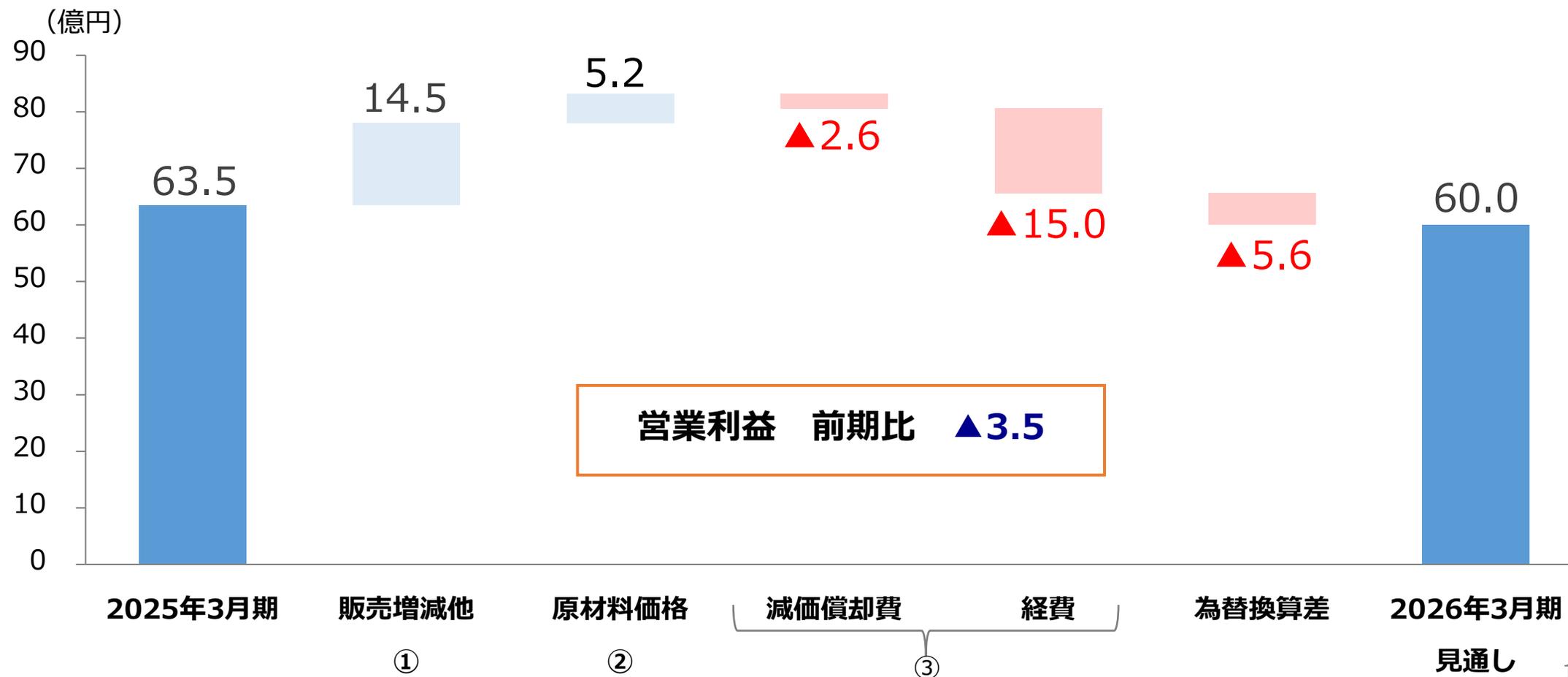


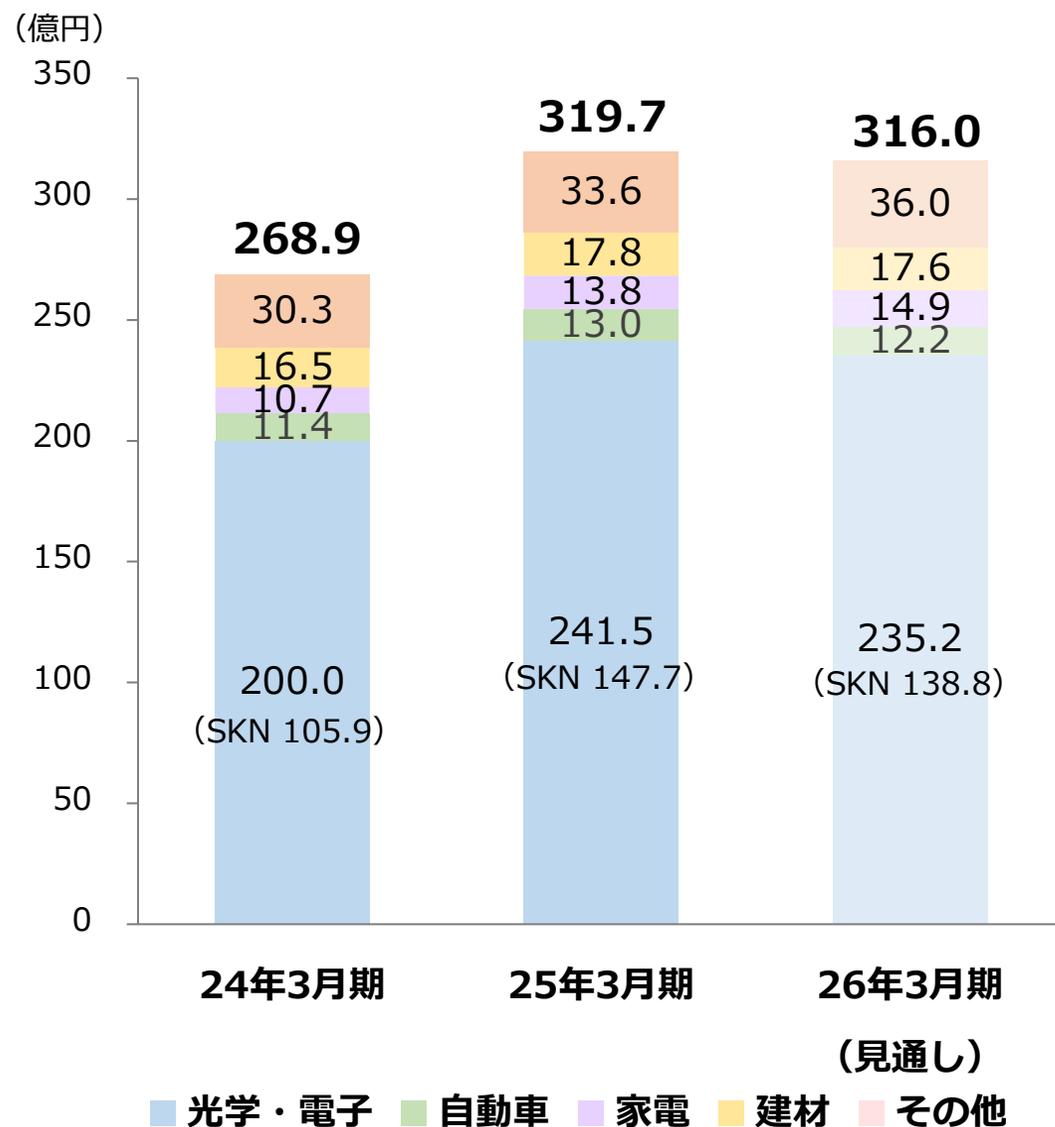
# 2026年3月期 業績見通し（半期推移）



# 2026年3月期 営業利益分析

- ① 液晶関連の粘着剤の増販効果や装置システムの増収による収益改善を見込む
- ② 原油価格の下落や円高に伴い、国内の原材料価格が下げ傾向で推移
- ③ 設備投資に伴う減価償却費や人件費、物流費、技術開発・新規事業開発費等の増加を見込む





※ SKN：中国子会社 綜研高新材料（南京）

(億円)

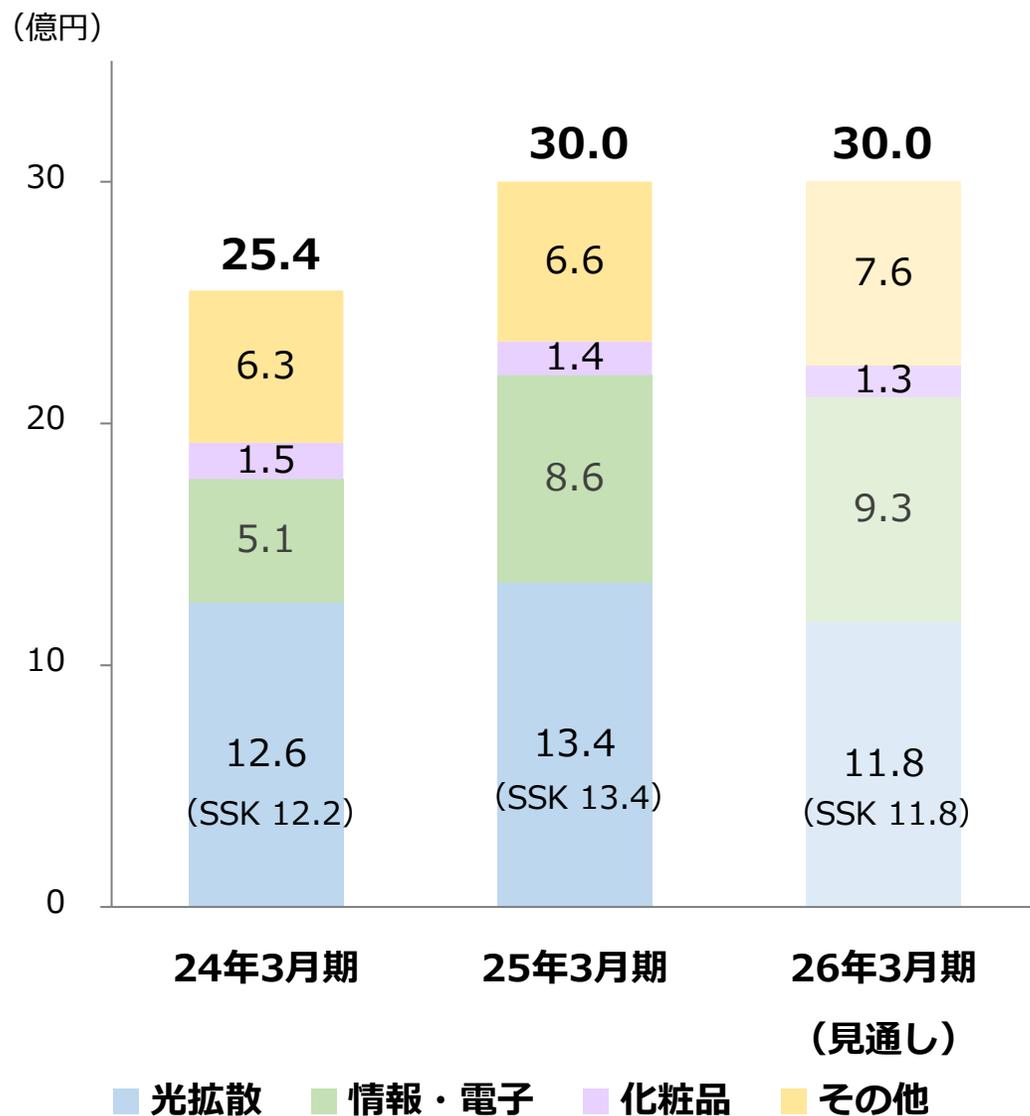
	25年3月期 実績	26年3月期 見通し	増減
光学・電子	241.5	235.2	▲6.3
自動車・建材他	78.2	80.8	2.6
合計	319.7	316.0	▲3.7

## 2025年3月期の概況

- 液晶パネル市況の回復とシェアアップ、オリンピック特需等により、偏光板・周辺用途の販売数量が大幅増
- 自動車・建材・家電など一般用途の販売数量は、新規案件の採用遅れなどから前期並みに留まる

## 2026年3月期の取り組み

- 中国顧客への技術対応力強化、需要拡大を見据えた中国工場の生産枠増量や安全環境規制対応投資の推進
- 車載ディスプレイ・建材用途等での顧客ニーズに応じた高機能製品や環境負荷低減製品の開発・採用獲得
- バイオマス・非アクリル系粘着剤などの新製品開発、用途・顧客開拓



※ SSK : 中国子会社 綜研化学 (蘇州)

(億円)

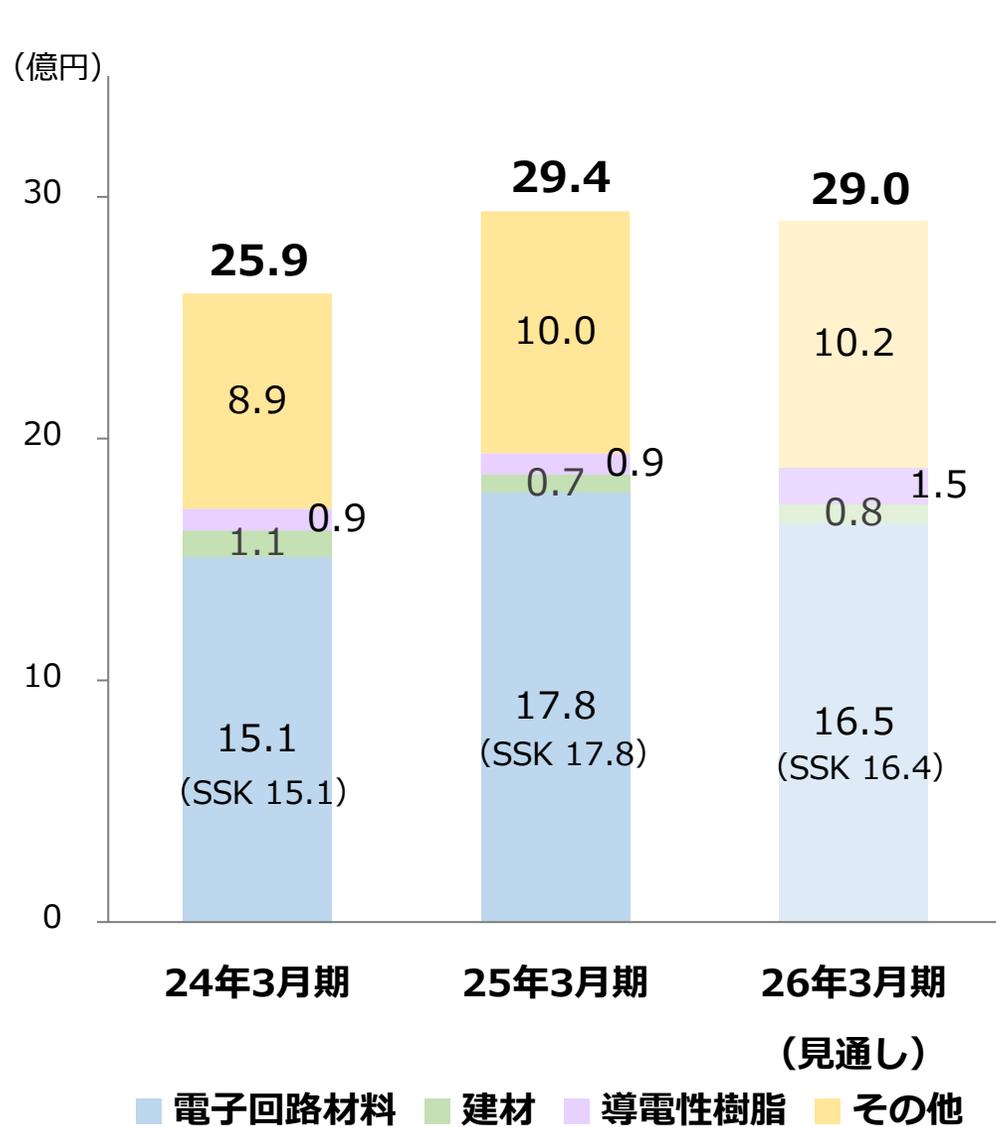
	25年3月期 実績	26年3月期 見通し	増減
光拡散	15.0	11.8	▲3.2
情報・電子他	15.0	18.2	3.2
合計	30.0	30.0	0.0

## 2025年3月期の概況

- 光拡散用途の販売は前期比微増に留まる
- 情報・電子分野は、電子部品関連の伸長に加え、トナー・塗料、照明関連の需要回復により増収

## 2026年3月期の取り組み

- MLCC用途など電子部品分野や光学フィルム用途での販売体制を強化し、中国顧客開拓に注力
- 生産プロセスの改善や製品構成の最適化、中国工場の生産増量などによる収益性の向上
- 化粧品用途の生分解性粒子など新規開発品の市場開拓



※ SSK：中国子会社 綜研化学（蘇州）

(億円)

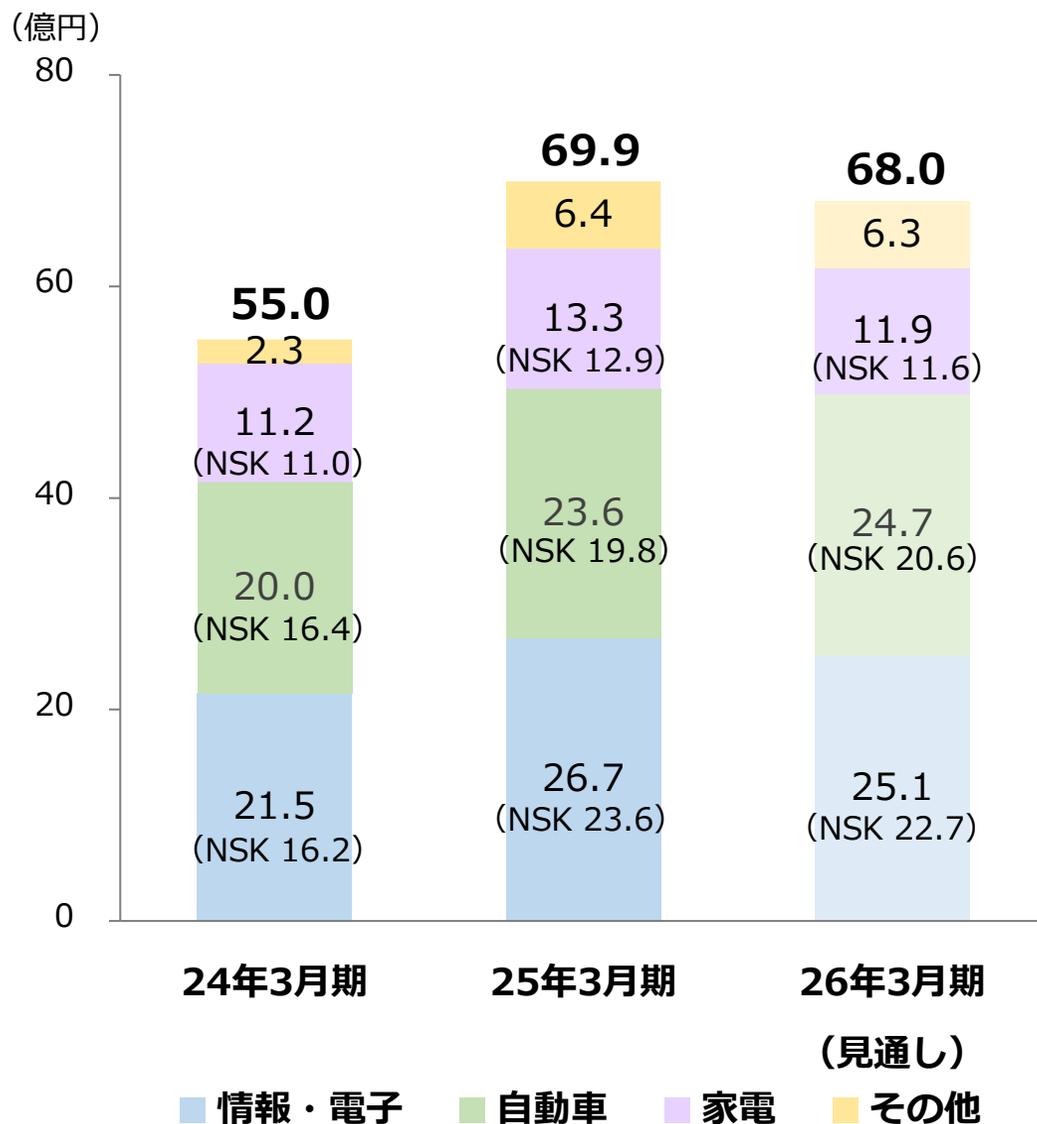
	25年3月期 実績	26年3月期 見通し	増減
電子回路材料	17.8	16.5	▲1.3
建材 他	11.6	12.5	0.9
合計	29.4	29.0	▲0.4

## 2025年3月期の概況

- 中国スマートフォン市況回復等により、電子回路材料用途の需要が回復。採算是正効果が続き増収増益
- 建材用途の減販を、収益性が高い光学・電子部品関連用途の増販でカバー

## 2026年3月期の取り組み

- 電子部品関連や電子回路基板用途での焼成樹脂・導電性樹脂の販売・技術対応力を強化し、中国市場でのターゲット顧客の採用獲得に注力
- 建材用途の新規案件の早期立ち上げ。導電性樹脂の量産体制構築と新規用途開拓の推進



※ NSK：中国子会社 寧波綜研化学

(億円)

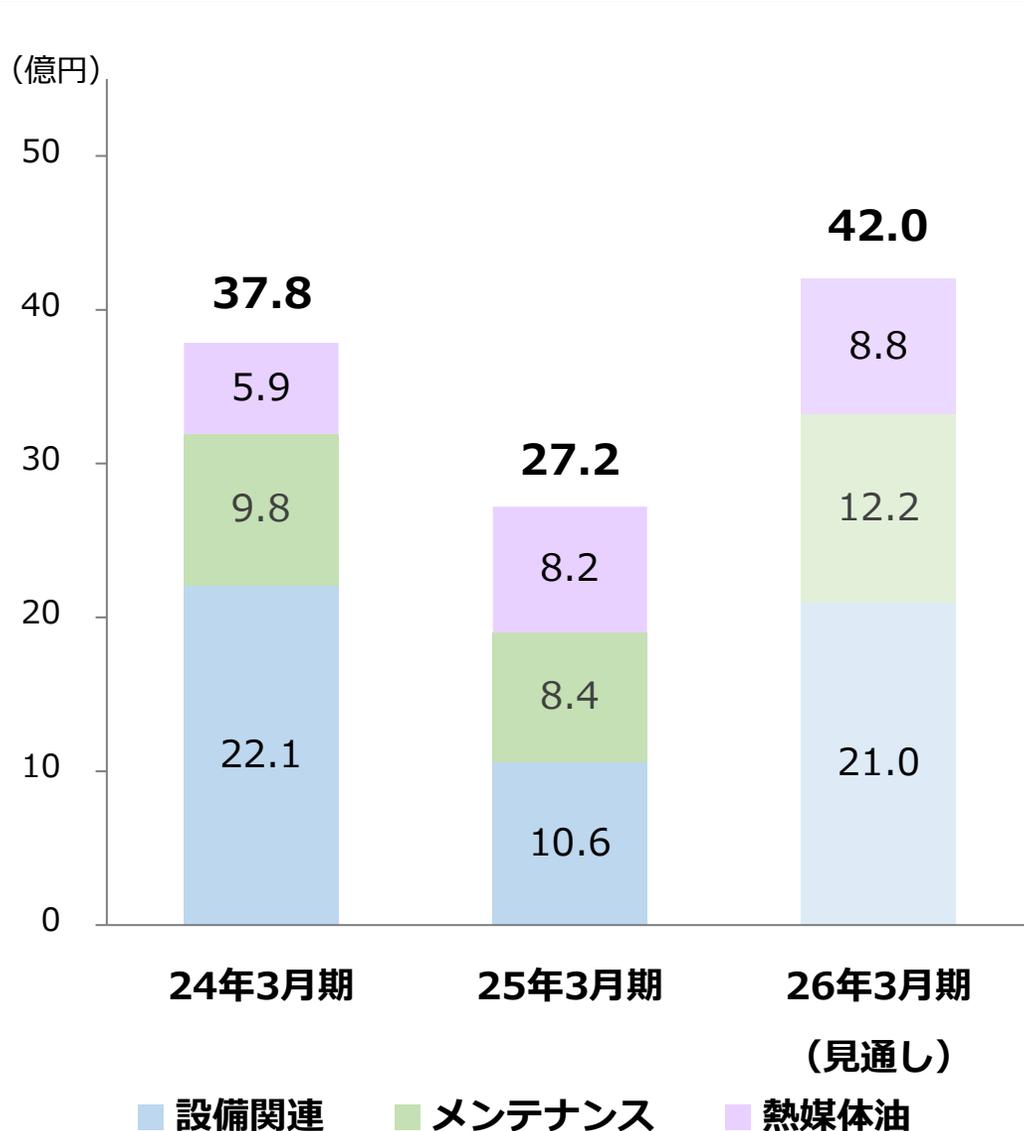
	25年3月期 実績	26年3月期 見通し	増減
情報・電子	26.7	25.1	▲1.6
自動車	23.6	24.7	1.1
家電 他	19.6	18.2	▲1.4
合計	69.9	68.0	▲1.9

## 2025年3月期の概況

- 情報・電子分野は、液晶スマートフォン用途での販売減をモバイル関連の新規案件でカバーし増収
- 自動車分野は、中国EVメーカー向けの内装・空調、静音タイヤ用途などの採用が進み増収

## 2026年3月期の取り組み

- 自動車分野での構造用接合テープ等の新製品や、静音タイヤ用など既存テープでの新規採用獲得に注力
- 精密塗工技術による光学用機能性フィルム、汎用性の高い環境配慮製品などの新製品開発・市場開拓
- 事業地域拡大に向けた事業体制再構築の推進



(億円)

	25年3月期 実績	26年3月期 見通し	増減
設備関連	10.6	21.0	10.4
メンテナンス・熱媒体油	16.6	21.0	4.4
合計	27.2	42.0	14.8

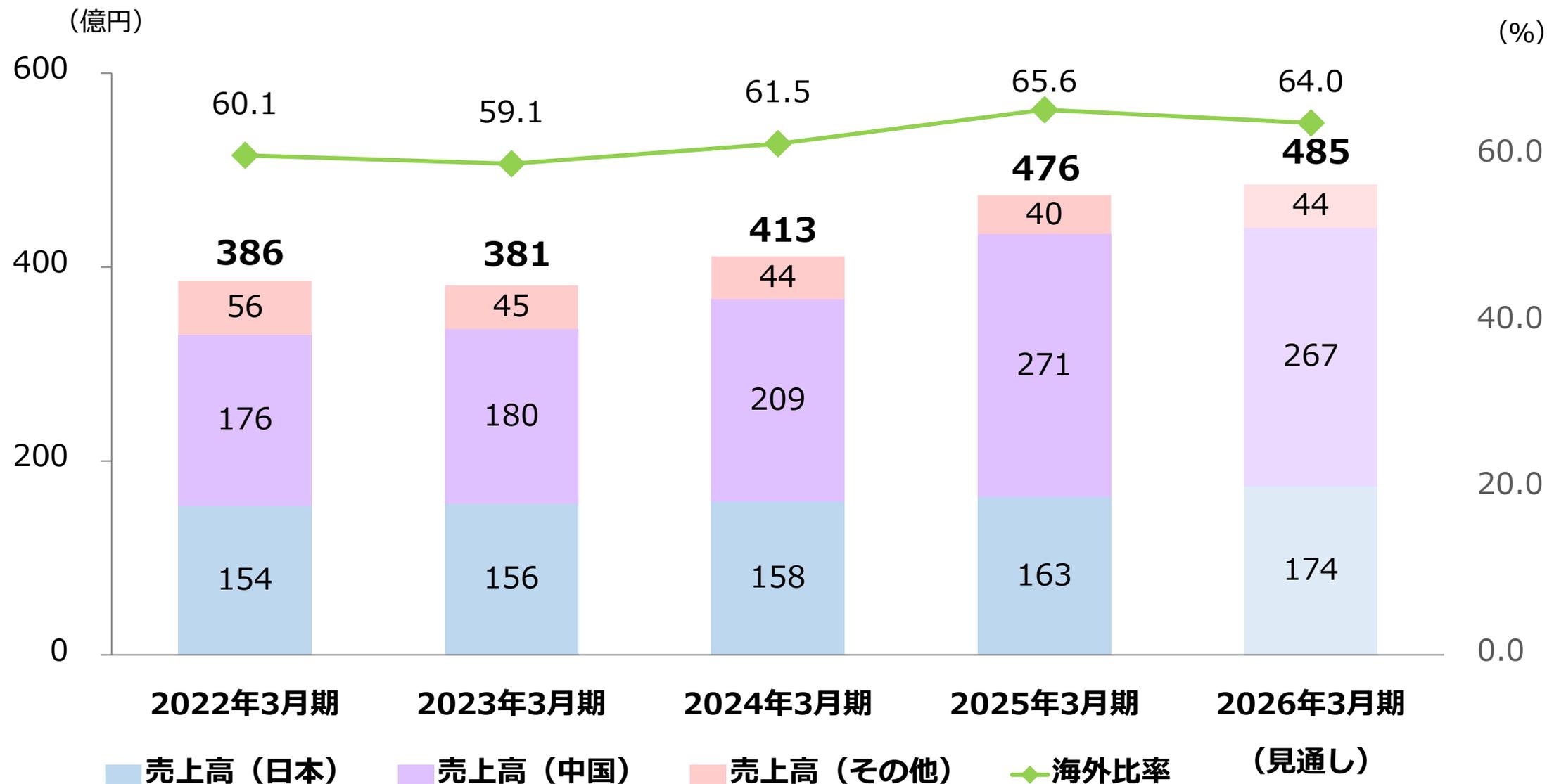
## 2025年3月期の概況

- 設備関連の大型案件の工期延期等の影響を受けて、前期比で大幅減収となり営業赤字
- 熱媒体油は海外案件の増加により増収、メンテナンスは診断サービスの拡販が進むも減収

## 2026年3月期の取り組み

- 設備診断サービスの拡充・受注拡大によるメンテナンス事業強化や再生熱媒体など環境負荷低減製品の販売拡大による高収益体質への構造改革推進
- 設備関連顧客との連携を強化し、受注案件を着実に遂行するとともに、業務効率向上による利益改善を図る

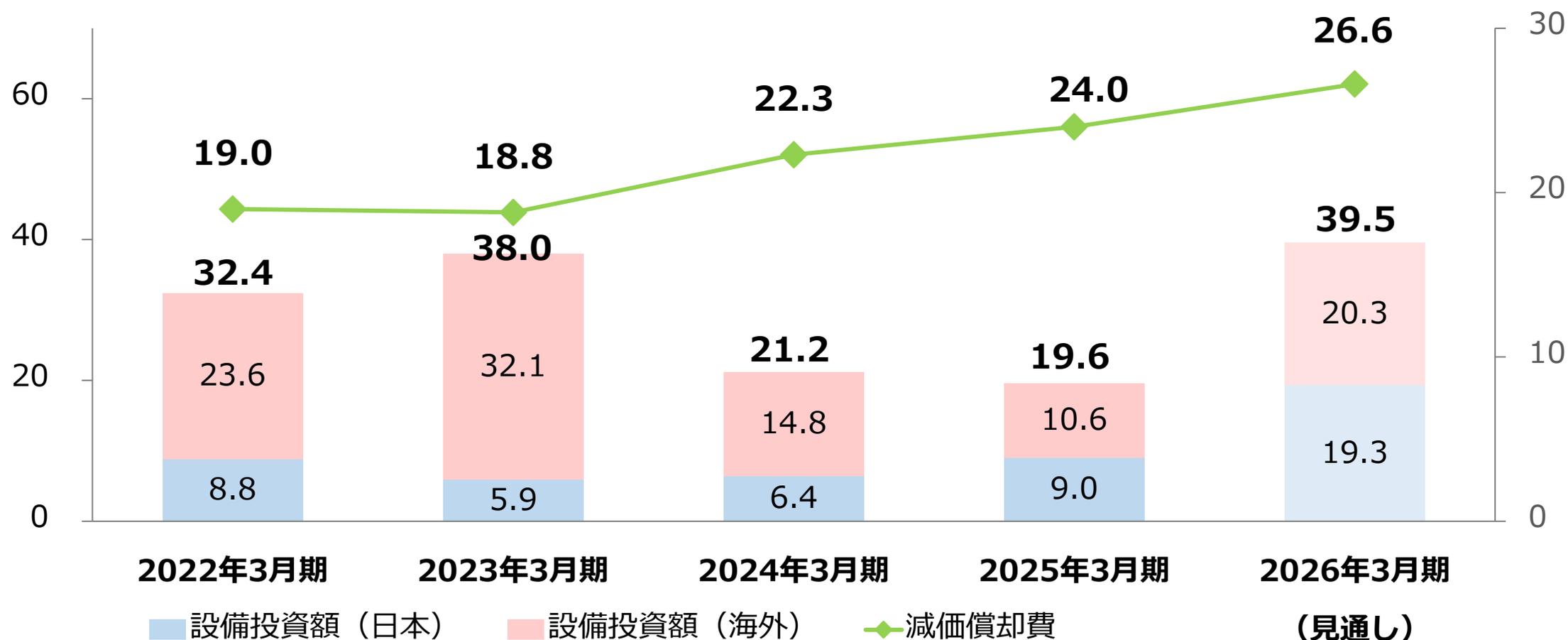
# 海外売上高推移



# 設備投資・減価償却

(設備投資：億円)

(減価償却費：億円)



## 設備投資内訳

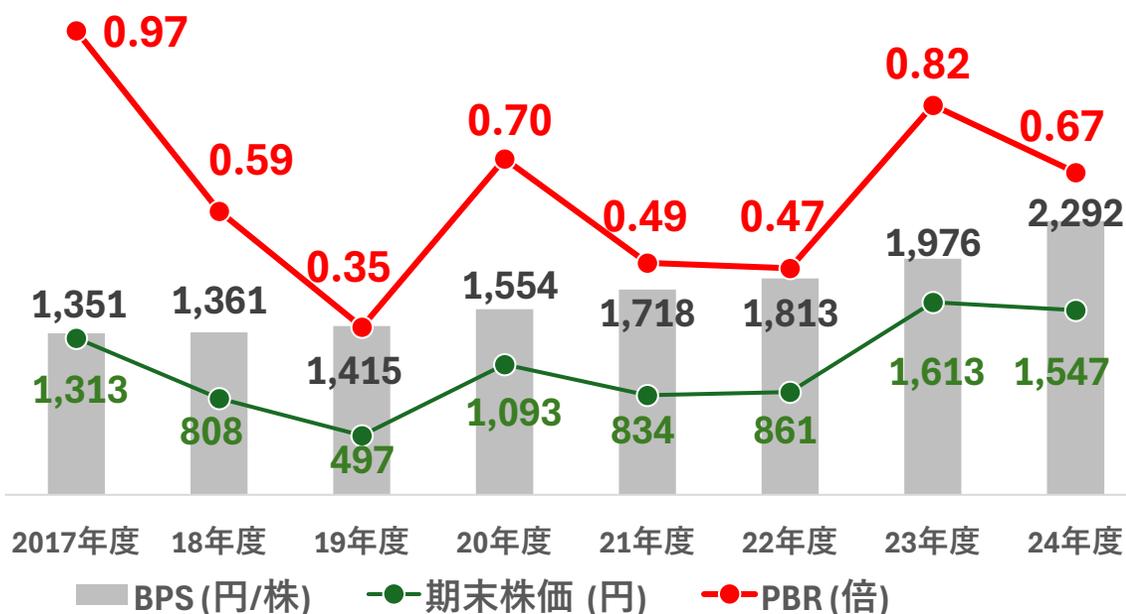
2025年3月期実績 生産設備合理化・更新 8.2、安全・環境対策 3.8、IT関連 5.0、研究・技術開発他 2.6

2026年3月期見通し 生産設備合理化・更新 22.5、安全・環境対策 5.0、IT関連 3.5、研究・技術開発他 8.5

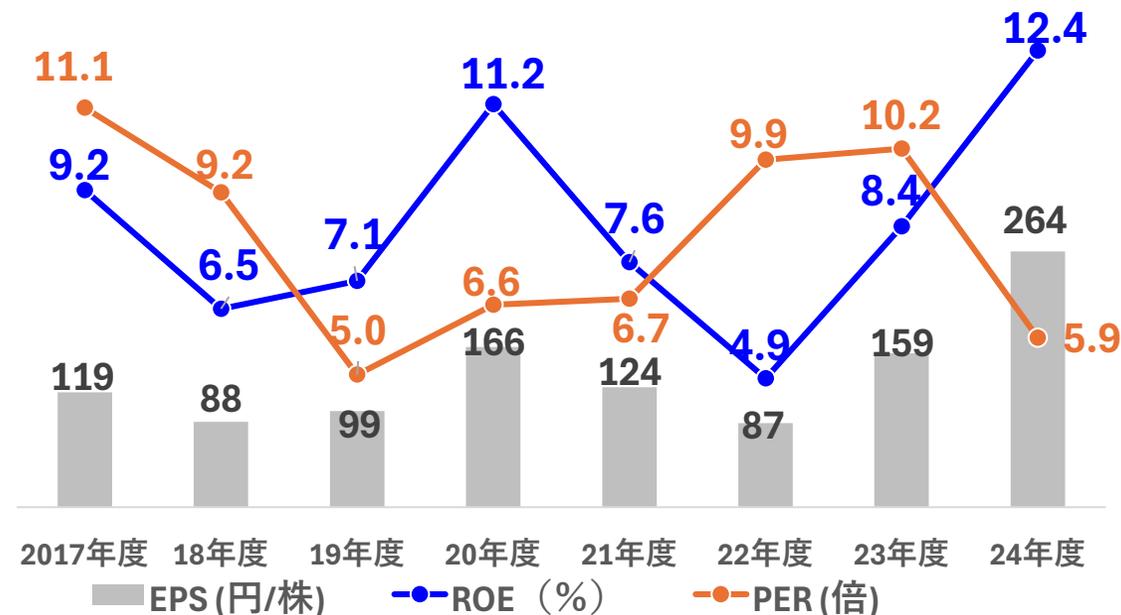
## 1. 現状分析・認識

- ◆ 低PBRの要因 : 利益変動幅が大きく、継続的に株主資本コストを上回るROEが確保できず
- ◆ ROEの変動要因 : 原材料価格や為替相場、液晶ディスプレイ関連の需要変動などの影響を受けやすい収益構造。資本収益性改善に向けた事業構造改革が経営課題
- ◆ PER低迷の要因 : 利益変動リスクや成長戦略・投資の遅れなどから、成長性・将来性に対する株式市場での期待・評価が得られていない

### PBR・株価・BPSの推移



### ROE・PER・EPSの推移



注) 2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、期末株価、BPS、EPSは分割後で換算した金額を記載しています

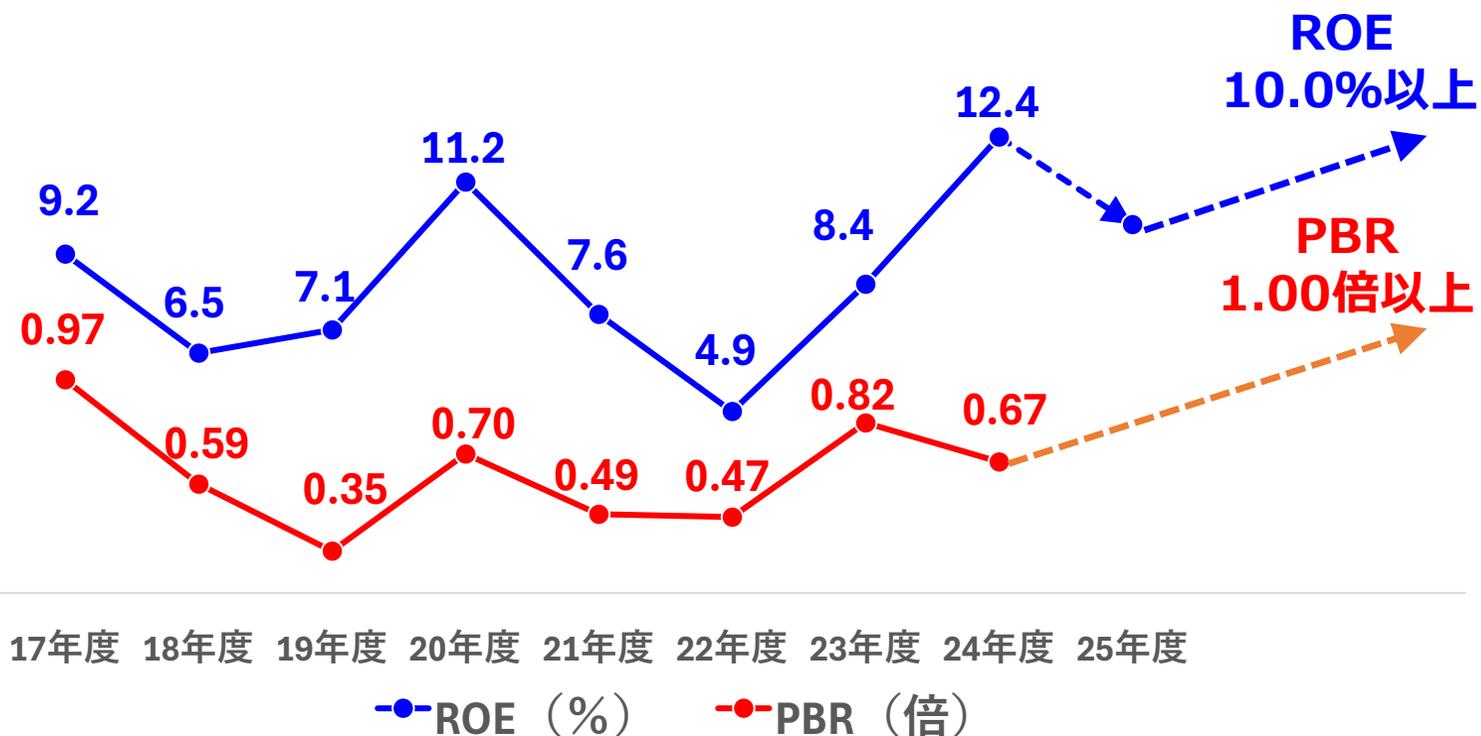
## 2. 資本収益性の改善に向けた方針・目標

### 改善に向けた取組み方針・目標

中期経営計画最終年度のROE目標を10%以上（+1.0pt）に引き上げ、事業構造改革の推進による更なる資本収益性の向上と株式市場評価の改善により、PBR1.0倍以上を実現する

### 2025年度目標

	中期計画	修正目標
ROE	9%以上	10%以上
ROA	7%以上	9%以上
(株主資本コスト:)	8~9%想定)	
売上高	500億円	485億円
営業利益	45億円	60億円
2023~25年度 設備投資額	130億円	約85億円
成長投資枠	70億円	検討中



## 3. 資本収益性の改善に向けた取組み

### 収益力強化 収益性向上

- ・ 液晶ディスプレイ関連分野の粘着剤のトップシェアの維持・拡大  
需要拡大に応じた生産・供給量確保のための設備投資等の推進
- ・ 成長分野での新規ニーズ獲得や高付加価値製品の拡充
- ・ 生産プロセスの自動化・省人化、生産・供給体制の最適化など合理化推進

### 事業構造改革 成長投資

- ・ 次世代事業領域の創出による特定事業分野・地域への依存度低減
- ・ バイオマス材料・製品など次世代製品開発の技術基盤確立
- ・ 技術開発力強化のための事業拠点再編、新規事業・新技術獲得に向けた協業・M&A等の検討、新たな海外事業展開など成長戦略・投資の推進

### 株主還元

- ・ 配当性向30%を目安に安定かつ継続的な配当水準の維持・向上に努め、  
中長期的には成長投資による利益成長、事業リスク等を踏まえた最適資本構成  
の追求、資本効率（ROE）の向上などにより、DOE 3%以上を目指す  
※2024年度配当(予定)：DOE 2.9%、配当性向 23.7%

### IR活動 サステナビリティ経営

- ・ 株主・投資家等との対話促進や情報開示の拡充など、株式流動性の改善  
に向けた施策の検討・推進  
※ 2025年4月1日付で、株式流動性の向上を図るため株式分割を実施
- ・ サステナビリティ経営の推進とマテリアリティ・目標等の情報開示

(注) 本資料中の予想は、決算発表日現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

<お問い合わせ先>

綜研化学株式会社 IR・広報室

T E L      03-3983-3268

E-mail     [investor.b5p.relations@sokenchem.com](mailto:investor.b5p.relations@sokenchem.com)

U R L      <https://www.sokenchem.com/>

## 参考資料

1. 中期経営計画「Advance 2025」の概要
2. ニュースリリース

## ビジョン

独自の技術・製品開発力を磨き、環境・社会課題の解決を志向した事業領域の創出と事業構造の変革により新たな成長軌道を築き、社会の発展とともに成長し続ける企業集団を目指す

## Advance 2025 (2023~25年度 中期経営計画)

コロナ禍で激変した経営環境に新たな成長の機会を見出し、2030年に目指す姿(ビジョン)の実現に向けて前進する1stステップ

## 基本方針

収益基盤の維持・拡大と収益性の改善によりキャッシュ創出力を高め、事業ポートフォリオの変革に向けた新たな事業領域の創出に資源を積極投入し、安定的な利益成長の経営基盤を構築する

## 重点施策

- ◆ 既存事業による安定収益基盤の拡大と収益性改善
- ◆ 事業構造改革に向けた次世代事業領域の創出
- ◆ サステナビリティ経営の推進

## ◆ 既存事業による安定収益基盤の拡大と収益性改善

- 中国液晶ディスプレイ関連の需要拡大に応じた生産・供給体制の強化と合理化推進
- 自動車、情報・電子デバイスなど成長分野での新たなニーズ獲得に向けた、販売体制の再編、開発テーマ対応力の強化、環境対応製品の拡充

## ◆ 事業構造改革に向けた次世代事業領域の創出

- 新たな事業領域創出に向けた、非アクリル系製品の開発、バイオマス材料・製品開発の基盤技術の確立、粘着・塗工技術を応用した新技術・製品開発の推進、新規事業開発体制の強化
- 生産性の向上、新製品量産化に向けた、革新的な生産プロセス開発の推進
- 中国に次ぐ新たな海外事業地域の探索と推進体制の構築

## ◆ サステナビリティ経営の推進

- 脱炭素化・循環型社会への貢献、安全・品質管理の高度化、人権尊重への対応など、サステナビリティ活動推進体制の整備・構築
- グローバル人材・高度専門人材の育成・確保、多様な人材の活躍・成長を促す人事制度改革
- 環境変化、事業戦略を踏まえたリスク管理・コンプライアンスの強化
- 業務改革に向けたITシステムの基盤整備とデジタル技術の導入推進

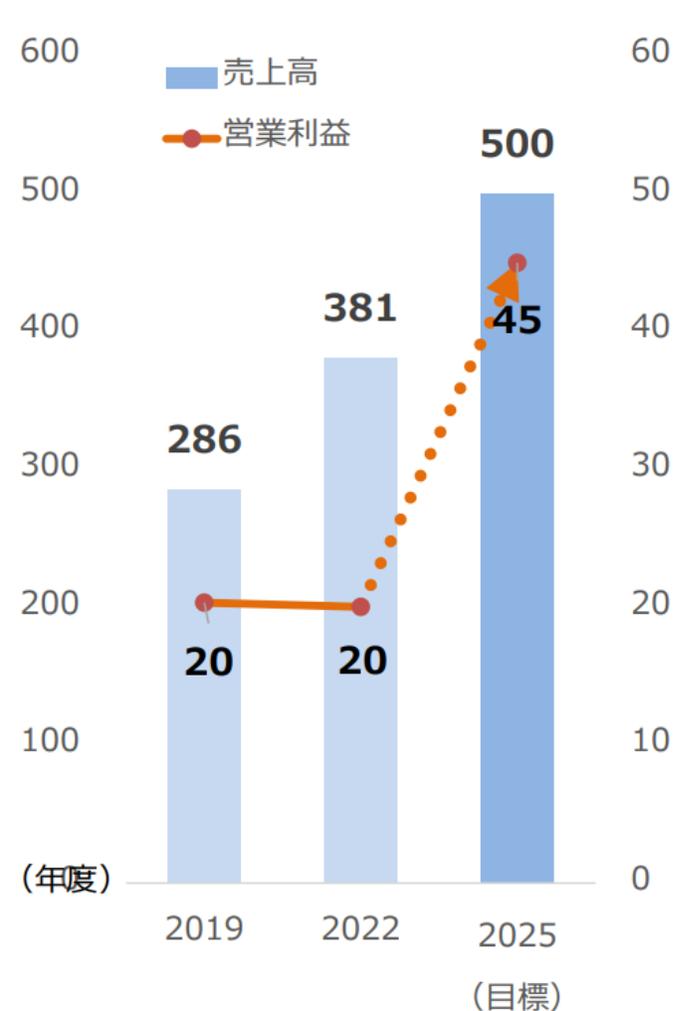
# Advance 2025 : 数値目標

## 売上高・利益目標

	2022年度 実績	2025年度 目標	増減
売上高	381	<b>500</b>	+119
営業利益	20	<b>45</b>	+25
営業利益率	5.3%	<b>9.0%</b>	+3.7pt
ROA	4.7%	<b>7%以上</b>	+2pt以上
ROE	4.9%	<b>9%以上</b>	+4pt以上

## 投資計画

	(億円)
<b>2023~2025年度 投資総額</b>	<b>200</b>
生産能力増強、設備維持・更新	70
研究・技術開発	35
情報インフラ、環境整備	25
成長投資枠 新規事業・技術開発・海外新規開拓他	70



## ◆ ケミカルズ

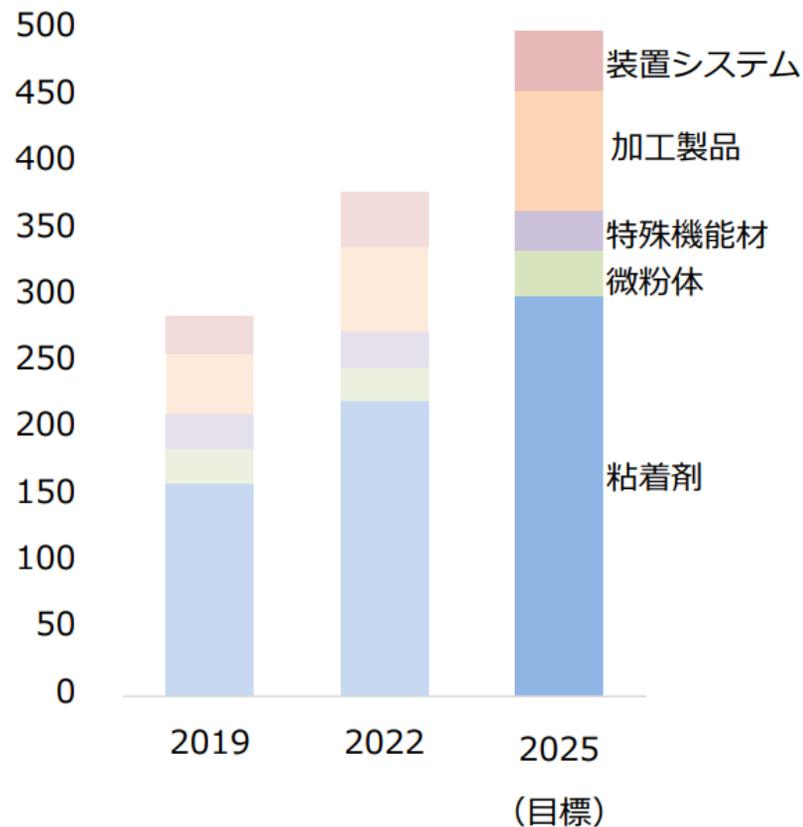
- 中国液晶ディスプレイ分野での高シェア維持・拡大、生産性向上による利益改善
- 環境対応製品等の高付加価値製品による新規用途・顧客開拓
- 自動車・情報・電子デバイス分野など中国市場での新規製品の販売・開発体制強化

## ◆ 装置システム

- メンテナンス・熱媒体油を主軸とした事業構造への転換による収益の安定化、収益性の向上

	2022年度	2025年度 目標	増減
<b>ケミカルズ</b>	339	<b>455</b>	+116
粘着剤	222	<b>300</b>	+78
微粉体	25	<b>35</b>	+10
特殊機能材	27	<b>30</b>	+3
加工製品	64	<b>90</b>	+26
<b>装置システム</b>	41	<b>45</b>	+4
<b>合計</b>	381	<b>500</b>	+119

(億円)



## 事業ポートフォリオ改革

安定的な利益成長を実現するために、原材料価格や液晶ディスプレイ需要など業績変動リスクに強い事業構造への転換が不可欠

既存事業の利益成長・最大化を追求するとともに、環境変化に対応する新技術・製品、新規事業により次世代の事業領域を創出する

### New Value 2022

収益基盤の拡大  
新規領域の探索

設備投資  
91億円

### Advance 2025

#### 既存事業の安定収益基盤拡大と収益性追求

- ▶ 中国事業の競争力強化
- ▶ 環境対応製品の拡充

#### 次世代事業領域創出の基盤構築

- ▶ 次世代製品の技術基盤確立
- ▶ 新規事業開発体制の強化
- ▶ 革新的生産プロセス開発の推進
- ▶ 新たな海外事業展開の探索

設備投資 130億円 (生産・開発・IT他)

成長投資枠 70億円 (技術獲得・新規事業他)

### ビジョン

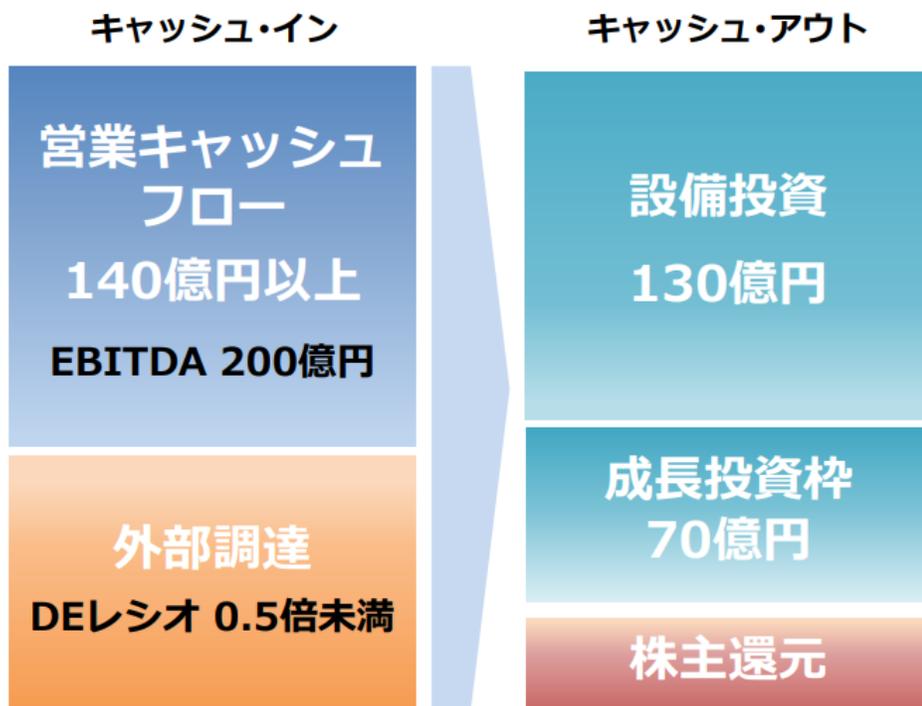
環境・社会課題の  
解決を志向した  
事業領域の創出

環境変化に強い  
事業構造への転換

- ▶ 特定事業分野・  
地域等への依存低減

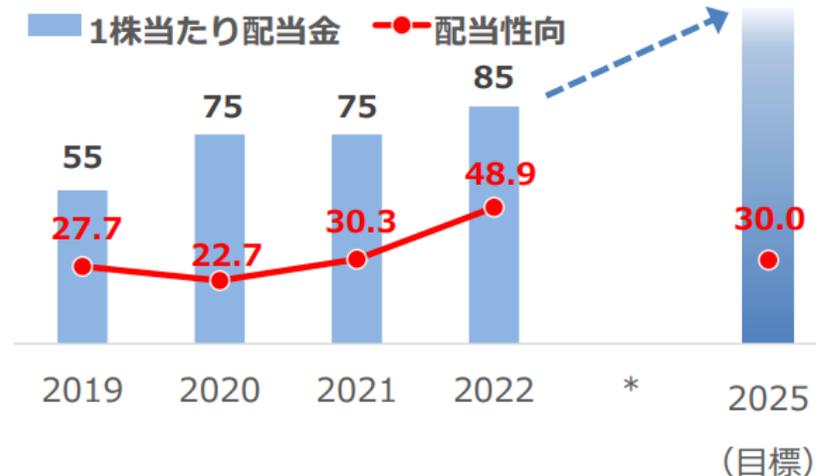
- ◆ 短期的な業績変動に関わらず、既存事業の競争力強化と新たな事業領域の創出に必要な投資を実行する
- ◆ 利益率と資産回転率の改善により、資本効率を高めるとともに、財務健全性を維持しつつ、安定的な配当水準の維持・向上を目指す

## 2023-25年度 キャッシュフロー



## 株主還元

事業・利益成長による企業価値向上を図るとともに、配当性向30%を目安に安定的かつ継続的な配当の実施に努める  
 中長期的には、資本効率（ROE）の向上による株主資本配当率（DOE）3%を目指す。



## ✓ 次世代事業領域における新規事業開発体制の強化



### News Release

2025年 4月 10日  
綜研化学株式会社

#### 生分解性バイオマスポリマーの吸水シート化に成功



— EFポリマーシート —



綜研化学株式会社(本社:東京都豊島区、代表取締役社長:富田 幸二)は、EF Polymer 株式会社(本社:沖縄県国頭郡恩納村、代表取締役:ナラヤン ラル ガルジャール)との共同開発により、生分解性バイオマスポリマーの吸水シート化に成功しましたので、お知らせいたします。

#### ●共同開発の背景

超吸水性ポリマーは一般的に石油由来の原料を使用しており、製造過程でのCO<sub>2</sub>排出や使用後の難分解性が環境負荷の原因となっています。

一方、EF Polymer社は果物の不可食部分を超吸水ポリマーにアップサイクル(※)する独自の技術を有しています。当社は、この技術と自社のポリマー設計・加工技術を組み合わせ、サステナブルな材料のオープンイノベーションに取り組んでいます。

(※)本来廃棄される予定のものを再利用して新たな価値を生み出すこと

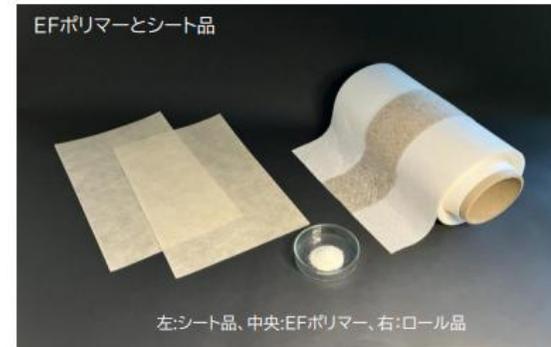
#### ●想定分野

農業、美容・ヘルスケア、衛生、食品包装、建材など。

#### ●EFポリマーシートの特長

果物の不可食部分をアップサイクルした吸水性ポリマーを使用したサステナブルなシートであり、製造工程においても環境負荷の原因となる有機溶媒を使用していません。

- ✓ 吸水性・保水性
- ✓ 可撓性
- ✓ 生分解性
- ✓ 保肥性
- ✓ 100%バイオマス由来



#### ● EF Polymer 株式会社 について

EF Polymer株式会社はインド生まれで沖縄育ちのディープテック・スタートアップです。オレンジやバナナの皮など、従来捨てられていた残渣をアップサイクルし、100%オーガニックの超吸水性ポリマーの「EFポリマー」を農業資材として製造・販売しています。また、完全有機のポリマーを日用品や化粧品、医療品の原材料としての応用を推進することで、企業のグリーントランスフォーメーション(GX)を支援しており、水不足を中心とした環境問題の解決を目指しています。

EF Polymer 株式会社

〒904-0495

沖縄県国頭郡恩納村谷茶1919-1 Innovation Square Incubator



## ✓ 次世代事業領域における新規事業開発体制の強化



### News Release

2025年 5月 14日  
綜研化学株式会社

#### 涙液による がん検査 を目指すスタートアップ企業 株式会社TearExoへの出資のお知らせ

綜研化学株式会社(本社:東京都豊島区、代表取締役社長:冨田 幸二)は、涙液によるがん検査を目指す株式会社TearExo(本社:兵庫県神戸市灘区、代表取締役:堀川 諒)に出資しましたのでお知らせいたします。

TearExo社は「涙1滴、誰もが疾病から解放される世界」をビジョンに掲げる、神戸大学発のスタートアップ企業です。コア技術である「TearExo®法」は、涙液に含まれるがん細胞由来の細胞外小胞(エクソソーム)を高感度・迅速・簡便・低コストに検出することが可能な技術です。

当社は新規事業の創出において、先端技術を有するスタートアップ企業との連携を進めています。TearExo社とは2024年4月から高分子材料を用いたセンシングチップの共同研究に取り組んでいます。当社の強みである高分子材料設計技術とTearExo社の検出技術を融合することで、検査のハードルが低い涙液によるがん検査という新たなソリューションの提供を目指しています。

このたびの出資により開発連携体制をさらに強化し、がんの早期発見・早期治療によるQuality of Lifeの向上と、相互の企業価値向上を実現してまいります。

#### ●TearExo®法について

TearExo®法は、涙液に含まれる細胞外小胞(エクソソーム)を前処理なし・高感度・迅速・簡便・低コストで検出が可能な技術です。細胞外小胞は、体中のあらゆる細胞から分泌される小胞です。がん細胞から放出される細胞外小胞を利用して、がんを早期発見する新たながん検出法が注目を集めています。TearExo®法は、従来の免疫測定法の100~1,000倍と高感度であることから、成分が希薄な涙液でも細胞外小胞を検出でき、従来法では必須である検体の前処理が不要です。



センシングチップイメージ

#### ●株式会社TearExoについて

- 【会社名】 株式会社TearExo
- 【設立】 2022年4月21日
- 【所在地】 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1
- 【代表者】 代表取締役CEO 堀川 諒 代表取締役CSO 竹内 俊文
- 【事業内容】 分子認識材料を用いたリキッドバイオプシーの研究・開発・製造・販売  
大阪・関西万博出展: 2025年6月24日~30日、大阪ヘルスケアパビリオン1階「リポーンチャレンジ」
- 【URL】 <https://tearexo.jp/>

